

「平成」に思いはせ

岩日タイムズ

発行者 日本大学
岩瀬 高等学校
高等部
新聞部
猿山 折 孝哉
佐藤 叶乃
相野谷

「平成」最後の1ヶ月を迎えて
つくば市の国立公文書館で取材

私たち新聞部は、3月8日につくば市の国立公文書館つくば分館を訪問しました。公文書館とは、国の機関が業務を行う過程で作成し、または受理された文書（公文書）の中で、本来の役割を終えたもの

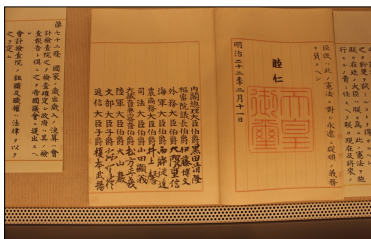


大好評の記念撮影コーナー。あなたも小淵官房長官に。

のを、保管・管理し、一般の利用に提供する場所です。公文書といっても様々で、日本国憲法や教育基本法について書かれた法律や、裁判の記録についての文書など、国の機関が関わる文書といっても多岐にわたります。公文書の他にも、織田信長や徳川家康の朱印状といった古文書なども保管・管理されています。つくば分館の常設展では、日本の歴史にまつわるさまざまな公文書が展示されており、大日本帝国憲法に關しては、つくば分館長補佐の茂木勝吉さんから、大

限重信の自筆の署名は非常に珍しく貴重な史料だと教わりました（写真下）。現在つくば分館では、まもなく平成が終わり新元号に代わる、ということ、当時の小淵恵三官房長官が掲げていた「平成」のクリアファイルが人気を博しています。担当の山下次光さんによれば、昨年春に本館とつくば分館で販売を開始したところ、すぐに完売し、本館から取り寄せたそうです。さらに購入者限定で記念撮影を行うこ

とができることから、多くの人が撮影を楽しまれるとのこと。この新聞が出る頃には新元号が発表されているでしょう。平成から新しい元号へ変わるこの機会に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。（佐藤）



日本大学学祖山田顕義の名も

平成最後の年ということもあり、「平成の書」が所蔵されている国立公文書館のつくば分館で「記念撮影コーナー」が話題になっていると新聞で知りました。今回が初めての取材だったので少し緊張しましたが、貴重な公文書を見たり、平成のクリアファイルを持って小淵さんのように記念撮影をしたりと、貴重な体験ができてとても楽しかったです。（相野谷）

編集後記

インタビュー
埼玉の田中さん

今回の取材中に、ご夫婦で来館していた埼玉県在住の田中敏夫さんに取材をお願いしたところ、快く引き受けてくれました。

田中さんのもとと歴史や社会の出来事に関心があり、テレビで公文書館について知ったそうです。来館の目的は平成の

文字が書かれたクリアファイルを買うため。以前来館した際には売り切れて買えなかったそうです。2度目の来館で目的のクリアファイルを購入できてよかった、と笑顔で撮影を楽しまれていました。

話題の「平成ブーム」について「昭和の時は、天皇陛下がおおくなりになり急遽平成に変わったが、今回は陛下が事前に

退位を宣言したから、このように大きな話題になっていのではないかと話してくれました。（猿山）

